

平和を実現するために

中沢中学校3年 木村 天寧

今、世界では戦争が様々な国で起きています。特に、二〇二二年から始まったウクライナの戦争は、ロシアがウクライナへの全面侵攻を開始したことによって始まった武力衝突です。侵攻から四年以上が経過した現在も東部・南部を中心に一進一退の激しい戦闘が続いています。当初ロシアでは短期間での首都キーウ制圧を狙っていましたが、ウクライナ軍の徹底抗戦と欧米の支援により、戦闘は長期化しています。ウクライナ側の死傷・不明者は四十～六十万人、ロシア側の死傷・不明者は百万人以上と推計されています。

そのようなニュースを見るたびに、なぜ戦争が起きるのか、戦争をして誰が幸せになるのかと私はいつも考えます。戦争はただの争いではありません。大切な日々や未来を一瞬にして奪います。日本は戦争をしていないため「平和だな」と私はよく感じます。私は平和とは争いがなく当たり前で普通の生活ができるということだと思います。

私はこの戦争が起きていない安全な国で生活しているので、実際に戦争を体験したことはありません。だから、戦争の痛みや苦しみ、辛さを実際には知りません。ですが、戦争の映像を観たり、歴史の勉強をする中で、「このようなことが今後日本で起きたらどうしよう」と、苦しくなります。

歴史の勉強をする中で、太平洋戦争などにより、日本国内では三百万人以上の軍人・民間人が犠牲となる痛ましい出来事が相次いだこと、おもな悲劇として、およそ二十万人が命を落とした「沖縄戦」、広島と長崎への「原子爆弾の投下」、そして日本全土で多くの命が奪われた「空襲」などがあった事を知りました。特に、原子爆弾の投下では一九四五年八月六日に広島、同月九日に長崎へ投下され、一瞬にして数十万人の命が奪われ、多くの人々がその後も後遺症に苦しんだことを知りました。一九四五年八月十五日に終戦となり、その後平和主義の考えが広がったことも学びました。

また、現在の日本では「武器輸出三原則」や「防衛装備移転三原則」によって武器の輸出について厳しい制限をしていましたが、二〇二六年四月のルール改定によって、殺傷能力のある防衛装備品や完成武器の輸出も、協定を結んだパートナー国に対しては原則可能となる大きな方針転換が行われました。日本は戦争をしているわけではありませんが、日本で作っている武器を戦争に使うということは、私にとって戦争に協力をしていると感じます。武器を供給することで戦争が長引き、多くの大切な命や大切な物が失われ、世界平和には繋がりません。日本は平和主義であるのに戦争に関係するものを作ってよいのでしょうか。

今こそ世界の人々が平和とは何なのかということを真剣に考えなくてはならないと思います。一人一人が小さな声や意見を上げるだけでも平和に向かって進むことができると思います。この世界ですべての争いがなく、当たり前で暮らせる世界を作るために考え続けなければならない、主張し続けなければならないと思います。ウクライナ侵攻をはじめとする各地の紛争では、多くの子供達も自らの言葉や絵画で戦争反対を訴え平和を求めています。それらのメッセージは、国境を越えて子供達の日常と未来を守るべきだという強力なメッセージとして世界中の人々に届けられています。当たり前の生活が当たり前でできる、小さな幸せを感じられる、そんな世界を実現するために私達は「戦争反対」という気持ちを持ち続けなければならないと私は考えます。